

2者対話における発話時間パターンの類似

～ 社会的スキルの程度による相違 ～

○長岡千賀 小森政嗣* 中村敏枝

(大阪大学大学院人間科学研究科 *広島国際大学人間環境学部)

key words: 対話, 同調傾向, 交替潜時

目的

対話場面において2者の発話の音声パターンは類似すること(同調傾向)が知られており, 交替潜時(一方が話し終わってから次の人が話し始めるまでの時間間隔)の同調傾向が親しみや好意の伝達と関連することが先行研究より示唆されている。相手の交替潜時と類似した交替潜時で話すためには, 話者が相手の交替潜時に応じた調整を行っている必要があるが, この調整には大きな個人差があることがこれまでの研究から示された。さらに予備の実験で, 相手に応じた交替潜時の調整と社会的スキルの関連が示された。しかし予備の実験では刺激の操作・統制の不十分さなどの不備がいくつかあったため, 本実験ではこれらを改善し, 社会的スキルが交替潜時の調整に及ぼす影響を検討する。スキルの程度による対話の仕方の相違を定量的に示した研究は少ないのが現状である。

方法

被験者 大阪大学学部生・大学院生計16名(男7名 女9名)。
刺激 台本はテレフォンショッピングの客とオペレータのやりとりを描いたものである。オペレータの2番目の台詞以降は「質問」-「答え」-「復唱」-「YES反応」の繰り返しで台詞が構成された(例えば, 「数量お願いします」-「1つ」-「お1つですね」-「はい」)。テレフォンショッピングの客を, 男性(以下, 話者 A)に演じさせ, 音声を録音し発話部分のみを刺激音声として用いた。1 モーラあたりの平均的長さが, 120msec になるよう波形編集ソフトで編集した。

装置 実験は大阪大学人間科学部感性情報心理学防音室で行った。被験者の前に置かれたキーボードおよびマイクは防音室外に設置されたコンピュータにつながっており, コンピュータ上の自作アプリケーションにより刺激の再生や発話の on/off 計測等が行われた。コンピュータで再生された刺激はヘッドフォンの左耳より呈示された。

手続き 被験者はオペレータ役で, ヘッドフォンおよびマイクを用いて話者 A と対話を行った。まず被験者がエンターキーを押すことにより試行が開始, すなわち, 話者 A の系列0(A₀)の音声再生された。続いて被験者が発話した後(Sub₁), 一定の交替潜時を置いて客の系列1(A₁)の音声再生された。言葉のやりとりを15往復したところで, 1試行が終了した。話者 A の交替潜時は表1のように操作された S は120msec, L は400msec であり, SLL 条件および SSL 条件では交替潜時が途中から延長, LSS 条件および LLS 条件では短縮する。実験後被験者は, 社会的スキル測定のための質問紙 ENDE2(堀毛, 1994)に回答した。

表1 話者 A の交替潜時の操作

	話者 A の系列(A _n)														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
SSS 条件	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S
LLL 条件	L	L	L	L	L	L	L	L	L	L	L	L	L	L	L
SLL 条件	S	S	S	S	S	L	L	L	L	L	L	L	L	L	L
SSL 条件	S	S	S	S	S	S	S	S	L	L	L	L	L	L	L
LSS 条件	L	L	L	L	L	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S
LLS 条件	L	L	L	L	L	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S

結果と考察

社会的スキルの程度 ENDE2 の記号化と解読の合計得点の平均 29.2 点(SD=5.7)を基準とし, 被験者を社会的スキル高群(8名)および低群(8名)とに分類した。

話者 A の交替潜時の変化に対する反応 SLL 条件と SSS 条件の Sub₇以降の比較, および LSS 条件と LLL 条件との Sub₇以降の比較から, 社会的スキル高群の交替潜時は話者 A の交替潜時が変化したのと同じ方向に変化することが示された(図1)。これらの結果は, 予備の実験の結果と一致する。

一方スキル低群では, SLL 条件と SSS 条件の比較の結果, 話者 A の交替潜時の延長と同じく延長する傾向があるが, スキル高群に比べると延長の程度が小さい。また LSS 条件と LLL 条件の比較から, 話者 A の交替潜時の変化とは逆に延長していることが示された。これらの結果も予備の調査の結果と矛盾しない。SSL 条件と SSS 条件の Sub₁₀以降の比較, および LLS 条件と LLL 条件の Sub₁₀以降の比較からも矛盾しない結果が示された。

以上のように, 本研究から社会的スキルの程度によって交替潜時の調整のやり方が異なることが示された。社会的スキル高群の被験者は, 相手の交替潜時と同じ方向に自らの交替潜時を変化させるように調整を行なう(ただし, SSL 条件および LLS 条件での結果はこれに一致しない。この原因について

現在検討中である)。この調整により交替潜時の2者間類似がもたらされると考えられる。またこの調整は社会的スキル低群では部分的にしか認められないことから, 交替潜時の調整のやり方によって相手に与える印象が異なることが推測される。この可能性についての検討は今後の課題として残されている。

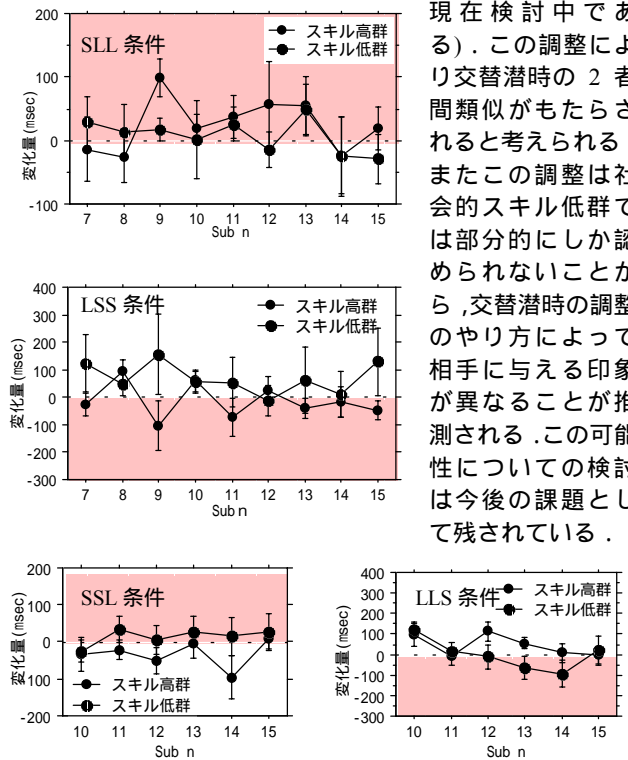


図1 交替潜時の変化量 話者 A の交替潜時の変化の前後で被験者の交替潜時がどれだけ異なるかを, SLL/SSL 条件は SSS 条件との比較, LSS/LLS 条件は LLL 条件との比較により示した。話者 A の交替潜時と同じ方向に変わった場合グレーの領域内にプロットされる。(NAGAOKA Chika, KOMORI Masashi, NAKAMURA Toshie)